

## 富山の宮大工・酒井匠家と所蔵図面目録

吉田純一\*・多米淑人\*

The Sakai Takumis in a carpenter of the building of shrines and temples in Toyama-District and its possession drawing list

Junichi YOSHIDA and Yoshihito TAME

The Sakai Takumis is the influential carpenter specializing in building shrines and temples in Toyama. The successive present head of a household for 5 generations built many Shinto shrines and temples from the Meiji era. In addition, many building drawings are left in the Sakais. This report paid off achievements and the possession drawing of the successive present head of a household of the the Sakais.

\* キーワード：宮大工、酒井匠家、木子流、東本願寺造営、木子棟斎、建築図面

### ◇はじめに

婦中町長沢にある酒井匠家は、井波の角平（松井）家、福野の嘉平（佐々木）家とともに、富山における代々宮大工を勤めた有力大工家である。文久2年（1862）生まれの安次郎を初代とし、以降今日の4代仁義氏、5代誠一氏まで、歴代当主は、代々「木子流」を名乗り、数多くの寺社建築を手がけ、その多くは富山市域や県内に現存している。一方、歴代当主が手がけた建築に関わる図面も数多く残り、その数は100葉を越している。

本書は、酒井家の歴代当主および歴代当主が関わった寺社建築、ならびに当家所蔵の建築図面を紹介するものである。特に建築図面の多くは、未整理の状態にあり、このままでは散逸あるいは欠損の危惧も多い。そこで、今後の保存や活用に供することを目的として、これらの建築図面を整理、写真データ化し、合わせて目録を作成した。

### 1. 酒井匠家と「木子流」

#### ①東本願寺造営と京大工木子家

酒井匠家が名乗っている「木子流」とは、中世から禁裏大工職を勤めている京の有力大工木子家に代々受け継がれた大工技術を継承する流派である。中でも酒井家や各地で「木子流」を名乗る大工家は、幕末から明治期に活躍し、明治期の東本願寺造営の棟梁を勤めた木子棟斎（写真1）との関わりが強く窺える。

---

\* 建築学科

木子棟斎は若狭国興道寺村、現在の福井県三方郡美浜町興道寺の出身で、文政2年（1819）に同村山室家の長男として生まれた。14歳の時に京に出て木子棟躬に弟子入りして大工技術の修行に励み、その技量が認められて棟躬の養子となって木子家を継いだ人物である。

東本願寺に残る天保4年（1833）大師堂造営や天保6年（1835）阿弥陀堂造営の棟札に肝煎として棟躬（柴田新八郎）の名がみられ、万延元年（1860）大師堂造営の棟札にはやはり肝煎として棟斎（柴田新八郎）の名がある。つまり、木子家の棟躬と棟斎は、江戸後期から幕末における東本願寺諸堂の相次ぐ造営に関わっていたことが



写真1 衣冠装束の木子棟斎（左側）

わかる。そして、東本願寺の明治期における再建工事では、木子棟斎が阿弥陀堂の造営棟梁を勤めている。ちなみに同時に並行して行われた御影堂の造営の棟梁は伊藤平左衛門であった。両堂の工事は、明治13年に鉦始があり、御影堂は明治22年に上棟、阿弥陀堂の上棟は同25年、遷仏・遷座式はさらにそれから3年後の明治28年であった。すなわち、鉦始から遷仏・遷座式まで実に16年を要した大工事であった。

造営に際しては、木子棟斎と伊藤平左衛門の2人の棟梁の下に全国各地から数多くの大工をはじめとする建築関係職人が召集されていた。たとえば、大工についてみると、御影堂造営に要した大工工数は128万3千人余、阿弥陀堂造営の大工工数は56万6千人余で、両堂を合わせた総計は実に185万6千人余にも及ぶものであった。

## ②木子棟斎と酒井匠家のつながり

木子棟斎は数多くの門弟を抱え、彼らを総動員して阿弥陀堂造営に当たっていたと思われるが、その門弟の一人、市田辰蔵は酒井匠家の2代当主安蔵の師であり、安蔵も師匠に従って阿弥陀堂造営に参加していた。つまり、酒井家の2代目安蔵は木子棟斎の孫弟子にあたるわけで、彼は阿弥陀堂造営を通して、師匠市田辰蔵はもちろん、その師であった木子棟斎やその門弟などから木子家伝来の技術や技に触れ、学び取っていたものと思われる。すなわち、安蔵は師匠の市田辰蔵を通して京大工木子棟斎あるいは木子家とつながりをもつようになり、その証や誇りとして「木子流」を名乗るようになったと考えられる。

ちなみに、福野の佐々木嘉平家も酒井家と同じように「木子流」を名乗っている。これは当家の祖岩次郎が明治2年（1869）にやはり木子棟斎の門弟となっていたことによるのであろう。酒井家2代安蔵の師である市田辰蔵と佐々木嘉平家の祖である岩次郎は、木子棟斎の兄弟弟子であった。東本願寺では、御影堂と阿弥陀堂の造営終了後も山門などの工事が引き続き行われていたが、これらの造営には佐々木嘉平家の3代・4代の当主が関わっていた。

このように酒井匠家あるいは福野の佐々木嘉平家が「木子流」を名乗っているのは、京の名門で有力大工木子家あるいは木子棟斎とのつながりを有することによるのである。

### ③市田家（重郎兵衛・辰蔵）について

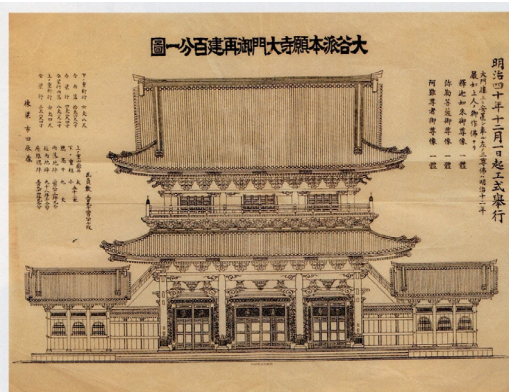
ところで、酒井家 2 代安蔵の師である市田辰蔵やその父重郎兵衛に関して、坂井修一氏（富山市在住、建築家）から興味深い指摘いただいた。酒井家よりも市田家と木子棟斎家にかかわることであるが、あえてここで紹介しておきたい。

市田辰蔵の父重郎兵衛も大工であった。彼の名は木子棟斎が棟梁を勤め、明治 25(1892)年 11 月に上棟した大谷派本願寺無量壽仏宝殿の棟札に「肝煎工匠」の一人としてみられる。この棟札には市田辰蔵の名前もあり、市田家と木子棟斎との関わりはすでに辰蔵の父重郎兵衛の代からあったことがわかる。

このように市田家が棟斎とかかわりをもつようになったのは、ともに若狭の出身であったことによると考えられる。前述のように棟斎は若狭興道寺村（現在の美浜町興道寺）の出身であるが、辰蔵の父重郎兵衛も同じく若狭の出身で、それも棟斎の興道寺村からわずか西へ 2 k m ほど離れた和田村（現在の美浜町和田）に生まれている。明治の戸籍によると、重郎兵衛は一瀬長四郎の長男で、生まれは天保 7 年（1836）7 月 1 日であるから棟斎より 17 歳年下になる。棟斎と同じように長男ではあったが、大工技術の修行を目指し、同郷のよしみで京の棟斎のもとへ修行に出向いたのではないだろうか。

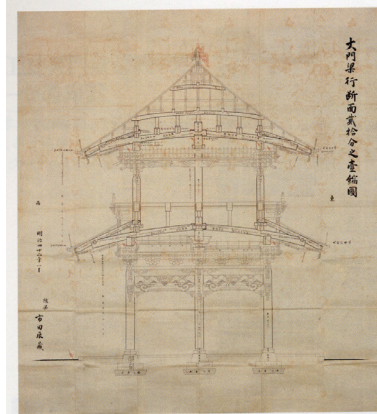
重郎兵衛は明治 34 年(1901)4 月上棟と仏光寺阿弥陀堂や明治 38 年起工の同寺本堂の棟梁を務めた。そして大谷派本願寺太師堂（御影堂）門再建に際し、明治 40 年(1907)11 月に御遠忌準備事務局中山藤右衛門から棟梁を命じられたが、それからほぼ 1 年後の明治 41 年 10 月 2 日に 72 歳で死去した。

一方、辰蔵は重郎兵衛の次男として慶応 2 年(1866)11 月 15 日に生まれている。上述の大谷派本願寺の無量壽宝殿のほか、父重郎兵衛が棟梁を務めた仏光寺阿弥陀堂造営では「総肝煎」として関わっている。また、重郎兵衛が棟梁を命じられた大谷派本願寺大師堂（御影堂）門の再建でも棟梁を務めている（写真 2）。この造営の立柱は明治 42 年 5 月、上棟は明治 43 年 4 月であり、明治 41 年に死去父重郎兵衛に代わって辰蔵が棟梁を引き継いだものと思われる。ちなみに市田辰蔵は大正 9 年(1920)2 月 21 日、54 歳で死去している。



156. 御影堂門再建百分一図

御影堂門起工式にあたって印刷配布された完成予定図。棟梁市田辰蔵の名も刷り込まれている。



157. 御影堂門再建  
断面二十分一縮図

御影堂門再建は、明治40年(1907)に発起、暮れには起工式が執行されて、用材が集められ始める。当図は本格的工事にかかるための設計図であり、棟梁市田辰蔵の製作。

写真 2 「棟梁 市田辰蔵」と記されている大谷派本願寺太師堂（御影堂）門の図面

## 2. 酒井匠家と歴代当主

酒井家の初代は、幕末の文久2年(1862)生まれの安次郎であり、彼の年代からみて酒井家は明治半ば以降に大工家として台頭してきたと考えられる。安次郎は昭和5年68歳で没したが、明治22年生まれの安蔵が2代目を継承、上記にみたように彼が師市田辰蔵を介して木子家とつながりをもったことにより、酒井家が「木子流」を名乗るようになったと考えられる。そして、安蔵の跡、安一が3代目を継ぎ、その後、4代仁義、5代誠一と受け継がれ、今日に至っている。

### ①初代 酒井安次郎

幕末の文久2年7月23日生まれ。昭和5年(1930)8月19日、68歳で死去。

### ②2代 酒井安蔵

明治22年(1899)7月3日、安次郎の息子として生まれる。明治42年から始まった東本願寺大師堂門の工事において大棟梁市田辰蔵に師事し、小屋組の責任者、ならびに絵様彫りの責任者を務めた。京都佛光寺の造営に関わり、当寺より「匠」の名を授かった。この匠の名は、勝手に名乗れるわけではなく、以来当家は代々酒井匠を継承している。その他に、安蔵が手掛けた建築として永源寺本堂、吉祥寺、西光寺本堂、東本願寺、本覚寺、外輪野神社、熊野神社、神明神社、豊川稲荷本山本堂などがある。終戦後の昭和22年(1947)11月30日、61歳で没した。

### ③3代 酒井安一

明治43年(1910)6月25日生まれ。安一が手掛けた建物は、西光寺本堂、大徳寺本堂、牛嶽神社、本願寺(富山別院本堂)、妙宗寺鐘楼堂、延命地藏堂などがある。このうち、西光寺本堂は2代安蔵とともに関わっている。昭和47年(1972)1月25日、61歳で死去した。

### ④4代 酒井仁義

昭和10年(1935)3月28日に生まれ、現在77歳。中学校を卒業後、父安一に師事し、堂宮大工の道に専念、父の後、酒井匠の名を受け継ぎ今日に至る。各願寺観音六角堂、西光寺本堂、西養寺鐘楼堂、聞名寺、万行寺本堂、万遊寺鐘楼堂、雄山神社、長沢稲荷神社、神明神社、八幡神社など数多くの寺社建築を手がけ、いずれも現存している。こうした業績や功績、優れた技術に対して、これまでに数々の賞を受けている。主なものを下表に示した。

表1 酒井仁義氏の主な受賞歴

受賞年	表彰内容
昭和56年	全国技能士会連合会長賞
昭和57年	労働省職業能力開発局長賞
昭和61年	日本建築技能士コンクール全国大会にて労働大臣賞を受賞
平成元年	労働省職業能力開発局長賞
平成2年	富山県知事から技能功労賞
平成4年	現代の名工として労働大臣表彰
平成5年	東本願寺より卓越した技能に対して表彰
平成7年	黄綬褒彰

### ⑤5代 酒井誠一

昭和37年10月4日に生まれ、現在50歳、父仁義より家督を継ぎ、酒井匠建築の現社長。



### 3. 酒井家の建築作品

初代安次郎、2代安蔵、3代安一、4代仁義が関わった寺社建築は下表の通りである。

表 2 酒井家が関わった寺社建築

当主名	寺社名	所在地	着工	完成	備考
初代 安次郎					
2代 安蔵	佛光寺本山本堂	京都市下京区高倉通仏光寺	—	—	責任者
	永源寺本堂	富山市婦中上友坂5446	—	大正8年3月	施工
	神明神社	富山市婦中町外輪野	—	大正13年3月	施工
	西光寺	富山市婦中町長沢3933	—	昭和22年8月	施工
	吉祥寺	富山市八町7536	—	—	施工
	東本願寺	京都市下京区烏丸通七条	—	—	責任者
	本覚寺	富山市婦中町富崎5153	—	—	—
	外輪野神社	富山市婦中町中町外輪野	—	—	—
	熊野神社	富山市山本	—	—	施工
	豊川稲荷本山本堂	愛知県豊川市豊川町1	—	—	責任者
3代 安一	西光寺本堂	富山市婦中町長沢3933	—	昭和22年8月	施工
	牛嶽神社	富山市小島	昭和25年6月	—	施工
	大谷派本願寺(富山別院本堂)	富山市総曲輪2丁目7-12	昭和25年6月	昭和27年3月	棟梁
	妙宗寺鐘楼堂	富山市婦中町田屋1028	昭和26年10月	昭和28年11月	施工
	大徳寺本堂	富山市呉羽町小竹	昭和34年6月	—	施工
	延命地藏堂	富山市石倉町	—	—	施工
4代 仁義	西養寺鐘楼堂	富山市小杉町黒河	昭和53年8月	昭和54年12月	施工
	聞名寺	婦負郡八尾町今町1662	昭和45年より	現在	施工
	万遊寺鐘楼堂	砺波市柳瀬685	昭和58年12月	昭和59年7月	施工
	各願寺観音六角堂	富山市婦中町長沢5692	昭和61年7月	昭和61年10月	施工
	西光寺御本堂	高岡市京町	昭和60年8月	昭和61年10月	施工
	万行寺御本堂	富山市二松443	昭和63年7月	平成元年11月	施工
	長沢稲荷神社	富山市婦中町長沢	平成4年10月	平成6年10月	施工
	雄山神社	中新川郡立山町芦峯寺46	平成7年	平成8年	棟梁
	大川寺本堂	富山市大山町			

#### 4. 酒井家所蔵の建築図面目録

##### ①袋別の整理

今回整理を依頼された酒井匠家所蔵の建築図面は 119 枚である。これらの多くは袋ごとに収められているが、中には袋のタイトルとは異なる寺社の図面が混在している場合がみられたり、無造作に収納されているために不均一な折れが生じたり、しわが目立つ図面も多い。

こうした図面の整理に当り、現在の整理状況を基盤に置くことにした。したがって、まずは、各袋に記されている外題をそのまま採用し、これに A から N までの英文字記号を付記して大分類とした。袋に収められていないものは「O 袋以外の図面(1), (2)」とし、筆など図面以外のものは「P その他」として一括している。下表は各袋の英文字記号と外題の一覧である。

表 3 袋別タイトル

A	永源寺
B	吉祥寺本堂矩計図
C	久證寺
D	京都 東本願寺大門矩計之図、豊川稻荷本殿図
E	東本願寺
F	婦中町音川村外輪野
G	富山市山本 熊本神社保存工事
H	参州豊川稻荷本殿之図
I	唐破風之図
J	小屋組之図
K	小屋組妻之図
L	虹梁 床前虹梁鬼ひな形、ひな形
M	酒井家社寺建築必推(携)之図
N	タイトルなし
O	袋以外の図面(1)、(2)
P	その他

##### ②各図面の整理

次にそれぞれ袋ごとに納められている図面について、折れやしわが顕著なものは、軽量アイロンを用いてできる限り修正した。そして 1 枚ずつデジタルカメラで写真撮影し、データ化し、A4 版大印画紙に焼き付けた。

撮影の際には、その図面が収められていた袋に対応するように、袋の英文字とともに袋ごとに 1 から順に付した図面番号を写し込んだ。たとえば、A-1、A-2、B-1、B-2、B-3・・・といった具合である。

なお、袋「M(酒井家社寺建築必携之図)」に収められている図面に関しては、あらかじめ 2～66(1 欠)の番号が付記されていたので、この番号をそのまま用いている。

図面の名称については、内題が記されているものは、それを採用、内題がないものは「タイト

ルなし」とし、図面の内容から判断した名称を（ ）に記している。

この他、縮尺が明記されている場合はタイトルの後にそれを併記し、法量についてはすべて縦(cm)×横(cm)の順に示した。

### ③酒井匠家所蔵建築図面目録

以上のような方法をもとに、酒井匠家所蔵建築図面目録を作成した（表4）。

表4 酒井匠家所蔵建築図面目録

記号	袋のタイトル	図面番号	図面 記載番号	図面の名称・縮尺	法量(cm)	備考
A	永源寺	A-1		永源寺 本堂建築設計書 大正八年参月調整	26.5×19.5	
		A-2		小屋組 四十分一図	29.0×65.0	
		A-3		友坂村永源寺本堂 唐戸側組物 拾分一之図	21.5×11.9	
		A-4		タイトルなし(柱の規矩図)	56.0×19.5	
		A-5		タイトルなし(軒の見上げ図)	70.5×29.5	
B	吉祥寺本堂矩計之図	B-1		吉祥寺本堂正面図 四十分一	53.5×78.0	
		B-2		吉祥寺本堂側面図 四十分一	53.5×78.0	
		B-3		吉祥寺本堂再建規矩計	73.0×52.0	
C	久證寺御本堂之図	C-1		久證寺本堂再建設計書 大正十五年五月起	28.0×20.0	
		C-2		久證寺本堂再建設計書	26.0×19.0	
		C-3		久證寺本堂破風形 十分之一	27.5×107.0	
D	京都 東本願寺大門矩計之図 豊川稲荷本殿図	D-1		大門下之重梁行初重組物之図	104.0×27.0	※豊川稲荷 の図はない
		D-2		大門下之重梁行式重組物之図	94.0×27.0	
		D-3		大門下之重梁行三重組物之図	83.0×26.5	
		D-4		大門下之重梁行四重組物之図	66.0×26.0	
		D-5		大門上之重児屋断面 二十分一之図	52.0×73.0	
E	東本願寺	E-1		タイトルなし(大門矩計図)	295.0×26.0	
F	婦中町音川村外輪野	F-1		外輪野神社拝殿建築設計書 大正拾参年参月調製	27.0×19.5	
		F-2		外輪野神社平面之図	34.0×27.0	
		F-3		外輪野神社向拝組物之図	22.0×32.0	
		F-4		平組物之図	25.0×44.5	
		F-5		外輪神社携之図	23.0×55.0	
		F-6		タイトルなし(拝殿柱間詳細図・平面、立面)	33.0×51.5	
		F-7		タイトルなし(妻部詳細図)	45.0×52.0	
G	富山市山本 熊野神社保存工事	G-1		山本村熊野神社々殿保存修理工事設計書 昭和五拾六年四起	26.0×18.5	
		G-2		山本村社拝殿建築平面設計図 縮尺三十分の壱	53.5×78.0	
H	参州豊川稲荷本殿之図	H-1		三州豊川其社側面縮図	68.0×63.0	
		H-2		参州豊川稲荷別殿側面図	66.5×54.0	
		H-3		側面図	66.5×54.0	
I	唐破風之図	I-1		タイトルなし(唐破風高配図)	26.0×66.0	
		I-2		タイトルなし(向唐門正面図)	52.0×72.0	
J	小屋組之図	J-1		西光寺本堂平面図	74.0×53.0	
		J-2		勢至堂梁行断面図 縮尺三十分の壱	52.0×73.5	
		J-3		タイトルなし(小屋図)	78.0×90.0	
		J-4		タイトルなし(小屋図)	36.0×83.5	
		J-5		タイトルなし(組物の見上げ図)	45.0×39.5	
		J-6		タイトルなし(妻図)	48.0×71.0	
K	小屋組妻之図	K-1		妙順寺小屋初重組之図	52.0×47.5	
		K-2		久證寺化粧裏之図	74.0×38.5	
		K-3		タイトルなし(軒の見上げ図)	44.5×26.0	
		K-4		タイトルなし(小屋図)	66.0×34.0	
		K-5		タイトルなし(屋根の高配詳細図)	30.0×76.5	
L	虹梁 床前虹梁鬼ひな形	L-1		吉祥寺本堂妻之図	54.5×146	
		L-2		L-1図の部分コピー	26.0×36.5	
		L-3		向拝秤拵正寸形背イ 五寸二分	26.5×38.0	
		L-4		妙覚寺向拝虹梁下端尺状現図	35.5×37.0	
		L-5		表面:鬼ひな形図 裏面:床前之絵様	26.0×37.5	
		L-6		L-8図の表面コピー	26.0×36.5	
		L-7		L-8図の裏面コピー	26.0×36.5	
		L-8		両面タイトルなし(梁の絵様図)	26.0×37.5	
		L-9		タイトルなし(梁の絵様図)	30.0×42.0	
		L-10		タイトルなし(尾垂木の絵様図)	26.0×37.0	

M	酒井家社寺建築必推(携)之図	M-1	2	配付桝上端の墨ノ付方	42.0×59.2	
		M-2	3	棒隅木の図	42.0×59.2	
		M-3	4	棒隅木の納り図	42.0×59.2	
		M-4	5	向留、上端留之研究之図	42.0×59.2	
		M-5	7	振隅山勾配の研究	42.0×59.2	
		M-6	8	入隅之図	42.0×59.2	
		M-7	11	タイトルなし(軒反図)	42.0×59.2	
		M-8	12	二軒出方明細之図 1/4	42.0×59.2	
		M-9	13	二軒隅木納り之図 1/10	42.0×59.2	
		M-10	14	野隅木、母屋納り之図 1/10	42.0×59.2	
		M-11	15	日蓮宗本山妙威寺五重塔軒廻り	42.0×59.2	
		M-12	16	扇桝之割付之図	42.0×59.2	
		M-13	17	木口裏甲隅割付図	42.0×59.2	
		M-14	18	万遊寺鐘樓堂扇桝之図 1/10	42.0×59.2	
		M-15	19	扇桝参考図	42.0×59.2	
		M-16	22	万遊寺野隅木之図 1/10	42.0×59.2	
		M-17	23	万遊寺野隅木之図 1/10	42.0×59.2	
		M-18	24	扇木桝を図面に書きあらわす方法	42.0×59.2	
		M-19	26	稲荷社御造営工事隅木之図 1/10	42.0×59.2	
		M-20	28	タイトルなし(茅負上端反り寸法計算の図)	42.0×59.2	
		M-21	29	茅負上端反り寸法計算の図	42.0×59.2	
		M-22	38	タイトルなし(柱の墨付き、万遊寺)	42.0×59.2	
		M-23	42	鶺鴒栓通り道墨の出し方 上端	42.0×59.2	
		M-24	43	鶺鴒栓墨出し方之図 1/20	42.0×59.2	
		M-25	44	タイトルなし(隅軒図)	42.0×59.2	
		M-26	47	タイトルなし(軒反詳細図)	42.0×59.2	
		M-27	48	破風巾寸法、裏甲、軒付巾寸法比例計算ニテ出ス方法之図	42.0×59.2	
		M-28	49	タイトルなし(懸魚)	42.0×59.2	
		M-29	50	聞名寺鬼納り 十分之一	42.0×59.2	
		M-30	51	タイトルなし(六葉)	42.0×59.2	
		M-31	53	差金ニヨル楕円形之出方	42.0×59.2	
		M-32	56	タイトルなし(豊栄稲荷神社本殿高欄疑宝朱現寸図)	42.0×59.2	
		M-33	57	豊栄稲荷神社本殿高欄疑宝朱現寸図 砲金製三度金鍍金 二個	42.0×59.2	
		M-34	59	タイトルなし(五角形作成図、切り妻軒付上端反り押し所計算)	42.0×59.2	
		M-35	60	多角形之茅負中勾上端留之出し方	42.0×59.2	
		M-36	61	外輪野神社向拝組物之図	42.0×59.2	
		M-37	64	駒額の其ノ甲の納まり棟真束の巾の定め方之図 1/6	42.0×59.2	
		M-38	65	大妻軒反りノ算出方法之図 1/10	42.0×59.2	
		M-39	66	ウズ巻之表し方法	42.0×59.2	
		M-40		各願寺六角堂軒廻り之図 1/10	42.0×59.2	
		M-41		表: 追分茶屋神明社御造後側之図 裏: 棒隅の場合	42.0×59.2	
		M-42		六角堂向留之収まり之図 1/2	42.0×59.2	
		M-43		扇桝明細之図 1/10	42.0×59.2	
		M-44		図面ニ表ス隅木の図	42.0×59.2	
		M-45		野隅木の隅勾配、山勾配の出し方の図	42.0×59.2	
		M-46		タイトルなし(軒詳細図)	42.0×59.2	
		M-47		タイトルなし(軒反図)	42.0×59.2	
N	タイトルなし	N-1		連王寺本堂向拝図 十五文ノ一	53.0×76.5	
		N-2		破風、唐破風詳細図: 高配、桁之間	50.0×73.0	
O	袋以外の図面(1)	O-1		御本堂正面図 縮尺二十分ノ一	86.0×127	※追加図面
		O-2		御本堂側面図 縮尺二十分ノ一	86.0×127	
		O-3		タイトルなし(鐘樓立面図)	75.0×64.0	
	袋以外の図面(2)	O-4		大谷派本願寺 富山別院御本堂再建平面之図	80.5×121.5	
		O-5		大谷派本願寺 富山別院御本堂再建正面之図(縮尺四拾分之一)	78.0×121.5	
		O-6		大谷派本願寺 富山別院御本堂再建側面の図(縮尺四拾分之一)	78.0×121.5	
		O-7		富山市石倉町 延命地藏堂再建正面姿形設計図(縮尺八分之壹)	80.0×96.0	
		O-8		富山市石倉町 延命地藏堂再建側面姿形設計図(縮尺八分之壹)	80.0×109.5	
		O-9		富山市石倉町 延命地藏堂再建正面断面形設計図(縮尺八分之壹)	80.0×92.5	
		O-10		富山市石倉町 延命地藏堂再建内陣姿形設計図(縮尺五分之壹)	76.5×75.0	
		O-11		富山市石倉町 延命地藏堂再建平面基礎設計図(縮尺拾分之一)	80.0×80.5	
P	その他	P-1		稚児行列	42.0×29.7	
		P-2		吉祥寺本堂 国通山	29.7×42.0	
		P-3		地業搗の図	29.7×42.0	
		P-4		O-3のコピー		
		P-5		二代目、四代目の覚書		
		P-6		西光寺本堂竣工記念		
		P-7		製図道具		



## 5. おわりに

酒井匠家は明治期から今日まで5代にわたっておもに富山県内において寺社建築の造営に関わる有力な宮大工家である。当家が「木子流」を名乗っているいきさつや当家歴代当主と各当主が関わった建築作品の紹介、そして酒井家が所蔵する建築図面の目録作成とデータ化保存をすることができた。ただし、図面に関しては、内容を詳細に検討するには至らなかった。大切な図面を長期間お借りしておきながら、この点に関しては今後、機会を見つけて検討していきたい。

### ◇付記・謝辞

本稿は酒井仁義氏より酒井家所蔵の建築図面の整理を依頼された吉田純一（福井工業大学）と多米淑人（同）が執筆したものであるが、酒井氏を紹介いただいたのは富樫豊氏（日本建築学会北陸支部富山支所会員）、坂井修一氏（建築家）、小林英俊（富山県建築士会会員）である。中でも坂井修一氏には自ら蒐集された酒井家に関わる資料や歴代当主が関わった寺社建築の写真、および富山の木工に関する諸資料をご提示いただき、多くのご教示を賜った。

また、整理および目録作成・写真撮影は、平成21年度福井工業大学建設工学科建築学専攻卒業の森下高旭君が卒業研究の一環として行った。本稿に掲載した図面目録および図面写真は、森下君が作成したものを一部修正して掲載している。

末尾に際し、酒井仁義氏をはじめ、これら関係者各位に感謝申し上げる。

### ■おもな参考文献

- ①吉田純一「木子棟斉と出身地の美浜町興道寺の木工や寺院との関わり」日本建築学会大会学術講演梗概集 2007
- ②吉田純一他『越前若狭の木工と絵図、道具 平成19年企画展図録』福井市立郷土歴史博物館 2009
- ③真宗大谷派宗務所出版部『両堂再建』1997
- ④真宗大谷派『東本願寺の至宝展 両堂再建の歴史』2009
- ⑤斎藤五郎平『名工佐々木嘉平伝』1973

(平成23年3月31日受理)